

# 震度5強が村を襲う

岩手北部地震 村の被害額 3千500万円



普段は釣り人が多い普代浜の北側。斜面から崩れた岩が散乱し道路が覆われました＝24日午前9時2分



教室の壁に亀裂が入った黒崎小。廊下の壁などにも被害は及びました＝24日午前9時17分



ガラスが破損した普代中の体育館＝24日午前10時7分



村道普代平賀線に散乱する落石＝24日午前2時4分



黒崎灯台周辺のさくも一部決壊＝24日午前11時

## 【岩手北部地震の村の被害状況】

(7月31日現在 村調べ)

区分	被害状況	被害額(万円)
人的被害	軽傷者 1人	—
住家被害	コンクリートブロックよう壁破損(黒崎地区ほか)	500
非住家被害	①国民宿舎「くろさき荘」：大広間の天井、照明、スピーカーなどの落下。客室の天井、テレビ、換気扇の落下。館内で照明の落下、壁面の破損、通路部のひび割れ・つなぎ目部分の隆起、暖房配管の破損。そのほか水道漏水、駐車場の舗装のひび割れ、キャンセルによる営業収入の減	600
	②黒崎キャンプ場管理棟窓ガラス破損	5
	③役場庁舎：正面玄関ひずみ、駐車場舗装のひび割れ、給用水配管などの破損(断水で復旧済み)	210
	④ふれあい交流センター：壁面のひび割れ	30
	⑤商店、事務所など10棟：ガラス戸、ウインドガラス、アルミホイール、食器、照明器具の破損	100
学校など	①黒崎小学校：壁に亀裂、屋上角コンクリートの破損	100
	②普代中学校：体育館のガラスの破損	10
	③運動公園野球場：本部・ダッグアウト壁ひび割れ	50
土木施設	村道の落石、河川護岸の決壊(太田名部地区)	550
観光施設	黒崎灯台展望台擬木破損、地面のひび割れ	615
そのほかの被害	墓石倒壊・ずれ、観光施設などの風評被害、炭窯前部窯口・鉢部分崩落、全面改修1基	675
合計		3,445



黒崎地区では墓石が倒壊。堀内地区でも灯籠などが倒壊しました＝26日午前11時3分

村は、午前零時30分に災害対策本部を設置。余震が心配される中、職員らは人的被害の確認を優先に、がけ崩れや道路の決壊、水道施設の確認、学校や公共施設などの情報収集に追われました。

幸い震源地が内陸だったことで、心配された津波もなく、大規模ながけ崩れ、停電、断水にも至らず、大被害にはなりませんでしたが、久慈消防署普代分署の中居昇署長は「地震は必ずくるものだと思うので常に備えることが大事です」と呼び掛けています。

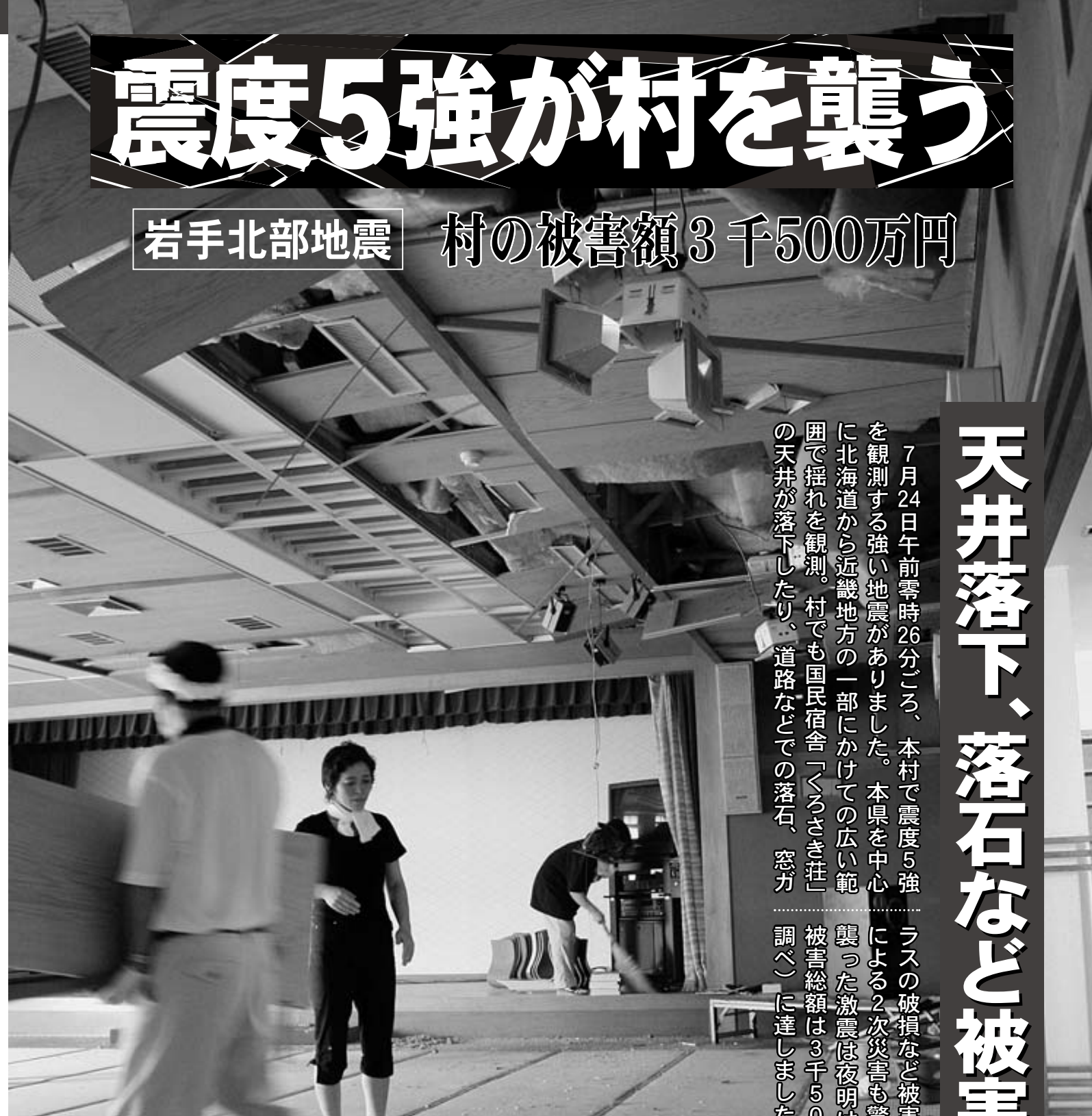
## 天井落下、落石など被害続出

7月24日午前零時26分ごろ、本村で震度5強を観測する強い地震がありました。本県を中心に北海道から近畿地方の一部にかけての広い範囲で揺れを観測。村でも国民宿舎「くろさき荘」の天井が落下したり、道路などでの落石、窓ガラスの破損など被害が続出しました。余震や雨による2次災害も警戒される中、真夜中に村を襲った激震は夜明けと共に村内の状況が判明。被害総額は3千500万円(7月31日現在・村調べ)に達しました。

「ドーン」と突き上げる震度5強の激しい揺れ。真夜中の激震に住民は驚きました。太田名部レストハウスを営む太田定治さん(60)は「ものすごい揺れだったので、津波を心配しましたが、大丈夫と分かって安心しました」と胸をなで下ろし、中央区の子船隆久さん(56)は「店のガラスが2枚割れましたが、思ったより被害は少なかったです」と地震の後の様子を語っていました。

### 暗闇の激震になすすべなし

気象庁によると、震源地は県沿岸北部。震源の深さは108kmで、マグニチュード(M)は6.8と推定。最大震度は洋野町で6強を記録しました。



天井の一部や照明、音響施設などが崩れ落ちた国民宿舎「くろさき荘」の大広間。壁のひび割れや客室の天井、テレビなども落下しました＝24日午後2時